

児童発達支援又は放課後等デイサービス事業に係る自己評価結果公表用

別添様式2

公表日：2024年3月31日

事業所名：ピタゴラ未来塾 垂水

区分	チェック項目	現状評価(実施状況・工夫点等)	保護者の評価	保護者の評価を踏まえた改善目標・内容
環境・体制整備	1 利用定員に応じた指導訓練室等スペースの十分な確保	一般的な集団療育に必要なスペースを確保している。運動する際は、一度に実施する人数を制限し実施している	「はい」・・・81.3% 「わからない」・・・18.8% ・人数が多い時は少し狭いかもかもしれませんが、活動するのに十分な広さの場所だと思います。 ・放課後等デイサービスになってから見に行っていないので見学してみたい	運動する際には場所や人数によって方法を考える。1階療育室の場合は、全体が動く運動の際は人数の制限をする。また、2階のスペースや公園等を活用することで解消できる際には積極的に活用する。
	2 職員の適切な配置	法令に基づいた人員の配置を行っている。契約書内に有資格者が何名いるのか等、人員配置に関しての記載を行っている。	「はい」・・・75% 「どちらともいえない」・・・12.5% 「わからない」・・・12.5% ・いつも皆様々な話を聞かせてくださいます	今後も職員のスキルアップに努めながら、手厚い人員配置と有資格者や心理担当職員等の専門スキルに特化した職員の確保を行っていく。新しい職員が入職した際には毎月のお知らせなどで、紹介をしていく。
	3 本人にわかりやすい構造、バリアフリー化、情報伝達等に配慮した環境など障害の特性に応じた設備整備	適切な設備整備を行っている。療育室入口の段差についてはスロープを設置し、赤テープで分かりやすくしている。また、身支度する場所や、入室しない箇所などは視覚化して分かりやすくしている。	「はい」・・・68.8% 「どちらともいえない」・・・12.5% 「わからない」・・・18.8%	利用児童の発達状況に合わせ、適宜適切な構造化や、障害の特性に応じた分かりやすい環境構築などに努める。
	4 清潔で、心地よく過ごせ、子ども達の活動に合わせた生活空間の確保	適切な生活区間を確保している。プログラム終了毎に掃除・消毒を実施し、清潔を保つように努めている。	「はい」・・・93.8% 「わからない」・・・6.3% ・また見学させて頂きたい	今後も健康管理・換気・消毒徹底していきます。
業務改善	1 業務改善を進めるためのPDCAサイクル(目標設定と振り返り)への職員の積極的な参画	月に2回のスタッフミーティング。1日3回のミーティング(朝礼・昼礼・終礼)を行い、話し合う機会を設けている。		
	2 第三者による外部評価を活用した業務改善の実施	実施なし		
	3 職員の資質の向上を行うための研修機会の確保	必要な内部研修を実施している。外部で実施される研修に参加している。		

適切な支援の提供	1	アセスメントを適切に行い、子どもと保護者のニーズや課題を客観的に分析した上で、児童発達支援計画又は放課後等デイサービス計画の作成	保護者への面談の機会を作っている。スタッフミーティング時に、児童個々のカンファレンスを行うことで、それぞれのニーズや課題を把握・共有している。それを基に個別支援計画を作成している。	「はい」・・・81.3% 「どちらともいえない」・・・12.5% 「わからない」・・・6.3% ・いつも丁寧にヒアリングして下さり、アドバイスも受け取りやすい言い方で伝えてくださっているように感じます。	今後も適切なアセスメント実施や、保護者面談の実施により、個々のニーズや課題の理解と共有を行っていく。それに合わせて、個別支援計画の作成・更新を行っていく。
	2	子どもの状況に応じ、かつ個別活動と集団活動を適宜組み合わせた児童発達支援又は放課後等デイサービス計画の作成	利用者の特性を鑑みながら興味に合わせて適切なプログラムに参加するように助言している。		
	3	児童発達支援計画又は放課後等デイサービス計画における子どもの支援に必要な項目の設定及び具体的な支援内容の記載	個別支援計画に記載している。	「はい」・・・86.7% 「どちらともいえない」・・・6.7% 「わからない」・・・6.7%	更新時に、面談や送迎時等を活用して、個別支援計画書の説明を実施していく
適切な支援の提供（続	4	児童発達支援計画又は放課後等デイサービス計画に沿った適切な支援の実施	それぞれの個別支援計画をスタッフ間で共有し、目標を念頭に置いた支援を実施している。	「はい」・・・93.8% 「わからない」・・・6.3%	常に全職員が児童の目標を意識して支援できるように、周知徹底していく。具体的にはカンファレンスを実施したり、支援目標の再確認をしたりしていく。
	5	チーム全体での活動プログラムの立案	スタッフミーティングにて、現状のプログラムの目標や実践プログラムの分析を行い、子どもたちの現状に沿ったニーズのプログラム立案を行っている。企画を出し合い、季節・年中行事等に照らし合わせたプログラムも作成している。		
	6	平日、休日、長期休暇に応じたきめ細やかな支援	長期休暇や休日は、平日のプログラムでは行えない思考を凝らしたプログラムや一日プログラムを提供するなど、利用者の利便性を考慮した支援を行っている。		
	7	活動プログラムが固定化しないような工夫の実施	繰り返すことで定着を図るプログラムもあるが、その中でも内容を精査、検討し提供している。 土曜日・祝日等のイベントプログラムや就学支援プログラムの実施を行い、さまざまな経験ができるよう工夫をしている。	「はい」・・・93.8% 「どちらともいえない」・・・6.3% ・季節感も取り入れてくださっているので楽しく参加できている	引き続き利用者の興味関心に沿うようなプログラムを立案していく。また、季節や時期を考慮したプログラムも盛り込み、誰もが参加しやすいものに改編していく。
	8	支援開始前における職員間でその日の支援内容や役割分担についての確認の徹底	昼礼時に本日行うプログラムのポイント、内容や準備物などを周知し、役割分担を決めた上で、流れの把握を周知徹底している。		

き	9	支援終了後における職員間でその日行われた支援の振り返りと気付いた点などの情報の共有化	終礼時に、その日の様子について話し合い、児童の成長や変化、療育の改善点について、成長記録に記録している。 必要に応じて、別途連絡ノートに記録している。		
	10	日々の支援に関する正確な記録の徹底や、支援の検証・改善の継続実施	サービス提供記録を記入し、サービスが適切であったか話し合っている。		
	11	定期的なモニタリングの実施及び児童発達支援計画又は放課後等デイサービス計画の見直し	6か月に一度実施している。児童の状態の変化やサービス内容が変わるときなども順次必要に応じて、モニタリング、再更新を行っている。		
関係機関との連携	1	子どもの状況に精通した最もふさわしい者による障害児相談支援事業所のサービス担当者会議へ参画	実施なし。		
	2	(医療的ケアが必要な子どもや重症心身障害のある子ども等を支援している場合) 地域の保健、医療、障害福祉、保育、教育等の関係機関と連携した支援の実施			
	3	(医療的ケアが必要な子どもや重症心身障害のある子ども等を支援している場合) 子どもの主治医や協力医療機関等と連絡体制の整備			
	4	児童発達支援事業所からの円滑な移行支援のため、保育所や認定こども園、幼稚園、小学校、特別支援学校(小学部)等との間での支援内容等の十分な情報共有	こちらで作成しているモニタリング表・個別支援計画書を書く連携機関にも共有していただくようお願いし、児童の情報の共有化を図っている。必要に応じて、連携機関との電話連絡・面談も実施している。		
	5	放課後等デイサービスからの円滑な移行支援のため、学校を卒業後、障害福祉サービス事業所等に対するそれまでの支援内容等についての十分な情報提供	該当なし。		

	6	児童発達支援センターや発達障害者支援センター等の専門機関と連携や、専門機関での研修の受講の促進	必要に応じて、対応・実施を行っている。		
	7	児等発達支援の場合の保育所や認定こども園、幼稚園等との交流や、放課後等デイサービスの場合の放課後児童クラブや児童館との交流など、障害のない子どもと活動する機会の提供	実施なし。	「はい」・・・33.3% 「いいえ」・・・26.7% 「わからない」・・・40%	開催する場合は、時期や児童の心理状況を鑑みた上で、慎重に進める必要があると思われる。
	8	事業所の行事への地域住民の招待など地域に開かれた事業の運営	地域のボランティア活動に訪問を依頼するなどし、地域資源の活用を目指している。		今後、地域の高齢者施設や商店街などの地域交流を検討している。
保護者への説明責・連	1	支援の内容、利用者負担等についての丁寧な説明	見学時には、支援内容を示した概要を使い説明を行っている。契約時や支援計画の更新の面談時などには質問があった時など、必要に応じて、丁寧に説明をしている。	「はい」・・・87.5% 「どちらともいえない」・・・6.3% 「わからない」・・・6.3%	継続して、問い合わせがあった際には、丁寧に説明対応していく。また、聞きやすく開かれた事業所になるよう努力していく。
	2	児童発達支援計画又は放課後等デイサービス計画を示しながらの支援内容の丁寧な説明	契約時、支援計画の更新の面談時、質問があった時など、必要に応じて、丁寧に説明をしている。	「はい」・・・93.8% 「わからない」・・・6.3%	更新の時期が来た際には、面談や送迎時等を活用して、個別支援計画書の説明を実施していく。また、面談していただけるように事前のお知らせや声掛けなどをしていく。
	3	保護者の対応力の向上を図る観点から、保護者に対するペアレント・トレーニング等の支援の実施	ペアレントトレーニング自体は実施していない。保護者支援については、個別支援計画更新のための面談時に、ご家庭の支援についての助言、提案等を行っている。	「はい」・・・18.8% 「どちらともいえない」・・・6.3% 「いいえ」・・・12.5% 「わからない」・・・62.5%	今後、保護者様に向けての講習会や勉強会を行っていきたいと考えている。
	4	子どもの発達の状況や課題について、日頃から保護者との共通理解の徹底	サービス終了時に、保護者に、本日の様子を伝え、共通理解に努めている。	「はい」・・・93.8% 「わからない」・・・6.3% ・困った時などは相談できる	引き続き、その日のプログラムについての振り返りなどを丁寧に伝えるようにする。また、日頃から保護者との共通理解に努める。
	5	保護者からの子育ての悩み等に対する相談への適切な対応と必要な助言の実施	保護者からご相談のご要望がある場合には、定期的な面談の機会に限らず、個人面談等の提案、実施をしている。	「はい」・・・81.3% 「どちらともいえない」・・・6.3% 「わからない」・・・12.5%	保護者様からの相談の希望がある際には、定期的な面談の機会に限らず、個人面談等を提案し実施していく。

連携支援	6	父母の会の活動の支援や、保護者会の開催による保護者同士の連携支援	実施なし。	「はい」・・・6.7% 「どちらともいえない」・・・13.3% 「いいえ」・・・33.3% 「わからない」・・・46.7%	保護者会としての実施ではないが、保護者参加型のプログラムの実施等を検討している。
	7	子どもや保護者からの苦情に対する対応体制整備や、子どもや保護者に周知及び苦情があった場合の迅速かつ適切な対応	実施している。	「はい」・・・60% 「わからない」・・・40%	継続して、迅速に対応できる体制を整えておく。また、苦情窓口の周知や、事実と事業所側の対策や対応の共有を行う。
	8	障害のある子どもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮	適宜、終礼等で職員同士で指摘・指導し合っている。		
	9	定期的な会報等の発行、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報についての子どもや保護者への発信	実施している。 月に一度おたより・お知らせ・各月のイベントの詳細を発信している。	「はい」・・・87.5% 「わからない」・・・12.5%	現在のところ、当月の行事予定などをお知らせとして発信している。今後は、HPの改善や、垂水スタジオ独自に別途お知らせを配信することを検討している。
	10	個人情報の取扱いに対する十分な対応	鍵付き書庫を使用し、個人情報に記載した書類を管理している。また、廃棄する際は、その都度、シュレッダーを使用している。	「はい」・・・93.8% 「わからない」・・・6.3%	引き続き、適切な対応・管理をしていく。
	1	緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアルの策定と、職員や保護者への周知徹底	緊急時対応マニュアル・防犯マニュアル・感染症対策マニュアル策定済み。	「はい」・・・56.3% 「どちらともいえない」・・・6.3% 「わからない」・・・37.5%	全マニュアルを保護者の目に触れやすい場所へ設置する。また、お知らせなどでも周知できるようにしていく。
	2	非常災害の発生に備えた、定期的に避難、救出その他必要な訓練の実施	年2回(3月・9月)に、防災訓練を実施している。火災想定・地震想定で一度ずつ実施し、プログラムの一環で取り組んでいる。どんなことに気を付ければよいか、子どもたちにも考えてもらおう機会としている。	「はい」・・・43.8% 「わからない」・・・56.3% ・行われていると思います	訓練の実施は引き続き行っていく。継続してお知らせなどで実施日などを周知するとともに、活動の様子や内容をお伝えできるようにしていく。

非常時等の対応	3	虐待を防止するための職員研修機の確保等の適切な対応	年に一度職員に研修を実施している。		
	4	やむを得ず身体拘束を行う場合における組織的な決定と、子どもや保護者に事前に十分に説明・了解を得た上での児童発達支援計画又は放課後等デイサービス計画への記載	実施なし。		
	5	食物アレルギーのある子どもに対する医師の指示書に基づく適切な対応	実施なし。		
	6	ヒヤリハット事例集の作成及び事業所内での共有の徹底	ヒヤリハット報告書を作成し、内容を検討するなど、職員間で再発防止に向けて、周知徹底を行っている。また再発防止策の定期的な見直しも行っている。		
満足度	1	子どもは通所を楽しみにしているか	児童や保護者様のニーズに応えながら、都度プログラム内容の見直し、楽しみながら行える療育内容を模索している。個別的な課題にもアプローチができるよう、個別支援プログラムの実施も行っている。	「はい」・・・81.3% 「どちらともいえない」・・・12.5% 「わからない」・・・6.3% ・行く前は嫌がるが、帰ってきたら楽しかったと聞く	年齢や特性、その時に合わせたカリキュラムの見直しを1年に1度行っている。また、児童が楽しみながら様々な経験や体験ができるプログラムの実践をしていく。随時、会員様の困りごとを解決できるように情報共有も行っていく。名前の呼称に関しては、学校園などの公共施設とは区別しながらも、「〇〇先生」など適切な呼び方を伝えていく。また職員も児童の名前を呼ぶ際には最大限の注意を払うようにする。
	2	事業所の支援に満足しているか		「はい」・・・93.8% 「わからない」・・・6.3% ・満足しているが、先生の名前を下の名前で呼ぶのが気になりました。学校では先生も生徒も男女関係なく、名字でさん付けなので。	